

☆世 界

綿 花 南半球で作付が本格的に

昨年9月に開始し2016年初めまで続くと見られる南半球での綿花作付が本格化している。ICAC(国際綿花諮問委員会)によると、南半球における綿花生産は例年世界全体の8~10%を占めるが、2015/16年は11%にまで拡大すると見られる。国際綿花価格が低い水準にある中で、南半球の作付は1%増の290万[㊦]、生産は2%減の250万[㊦]と予想されている。作付地の大部分が乾燥地域を占めるオーストラリアの作付面積は、前年の2倍以上に相当する30万[㊦]の見込みだが、生産は平均イールドの低下(27%減の1,867kg/[㊦])により、11%増の56万[㊦]にとどまる見通しである。一方ブラジルでは、作付面積が4%減の95.2万[㊦]、生産は約150万[㊦]となる見通し。

2015/16年の北半球の綿花生産は2,060万[㊦]と予想されている。インドの生産は620万[㊦]の見込みで、これは北半球全体の30%を占める。中国の生産は前年比19%減の530万[㊦]の見込みで、2007/08年に記録した810万[㊦]から35%減となる。パキスタンでは、悪天候、害虫の影響に加え、各種コスト高による綿作農家の生産意欲低下が重なり、平均イールドは前年に記録した812kg/[㊦]から22%減の637kg/[㊦]となる見通し。作付面積は270万[㊦]で生産量は170万[㊦]と予想されている。米国では作付面積が13%減少し、秋の大量降雨などに起因しイールドが低かったこともあり、生産量は18%減の290万[㊦]となる見通し。

2015/16年の世界のミル消費は、前年度から横ばいの2,430万[㊦]となる見込み。2015/16年の世界の綿花価格は、ポリエステル価格の下落傾向が続く中、前年同様となっている。2010/11年以降減少していた中国のミル消費は昨年度750万[㊦]で安定していたが、2015/16年は3%減の730万[㊦]となる見通し。また、インドでは3%増の550万[㊦]となる一方で、パキスタンでは12%減の220万[㊦]となる見通し。

2015/16年の世界の綿花需給は、消費が生産を上回る見通しではあるが、依然として供給過剰な状況にある。2015/16年の期末在庫は2,060万[㊦]と予想され、その58%を中国が占める。2015/16年の中国の輸入は34%減の120万[㊦]と予想され、中国を除く国々の輸入が610万[㊦]で6%増加する見通しであるものの、中国の減少幅を相殺することなく、2015/16年の世界の綿花輸入は4%減の730万[㊦]となる見通し。

世界の綿花需給見通し

(100万ト)

	2013/14	2014/15	2015/16
生産	26.28	26.23	22.89
消費	23.88	24.22	24.33
輸入	8.67	7.60	7.35
輸出	8.99	7.70	7.31
期末在庫	20.11	22.03	20.59
価格*	91	71	71

*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。